



鶴見 久美子 議員

古河市内公共交通網について

問 高齢ドライバーの交通事故多発による免許自主返納者増加に伴い、市民の足となる全市的な公共交通網の早急な整備が必要である。ぐるりん号の総和、三和地区の全面運行、愛・あい号の古河地区への運行と市民の声の多い古河総合病院への利用拡大についての所見と課題を伺う。

答（総務部長） ぐるりん号は、

総和地区で一部運行しており、三和地区は、古河駅への移動ニーズもあり、令和2年度から市内横断バス、三和直行便を再開する予定である。

愛・あい号は、古河地区在住の方でも総和、三和地区内の移動であれば乗車できる制度を検討しているが、古河エリアでの運行予定はない。また、古河総合病院への乗り入れについては、検討課題となっている。

選挙について

問 投票所に出向いての投票は、高齢者や障がい者には大変なことであるため、バリアフリー化などの投票所の整備は重要である。投票所の現状について伺う。また、記載台や投票用紙が特殊

な紙のため滑って書きづらい。対応について伺う。

答（選挙管理委員会書記長） 57カ所の投票所は、バリアフリー施設が6カ所、常設スロープが16カ所、仮設スロープが8カ所、エレベーターのある施設が1カ所、人的介助をしているところが26カ所である。

記載台については、全ての投票所に滑りどめシートを用意する準備を進めている。



第43投票所の入り口状況



高橋 秀彰 議員

SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取り組みについて

問 SDGsは「誰ひとり取り残さない」とのキーワードのもと、持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現を目指し設定されたが、この基本理念は、古河市が将来にわたって、持続可能な社会を形成していく上で、大変重要な視点であり、全市的に取り組む必要があると考えるが、どうか。

答（市長） SDGsについては

国連サミットにおいて、全会一致で採択され、2030年を期限として具体的な目標値が設定されている。これを達成するためには地方自治体においても積極的な取り組みが必要である。市では第2次古河市総合計画、第2期基本計画の策定において、具体的な事業の行動指針を検討し、国際的な目標達成に寄与したいと考えている。

スクールロイヤー制度の導入について

問 学校現場のさまざまな問題には、法律に基づく適切な対応が求められており、学校に理解のある弁護士が学校側の相談相手となるスクールロイヤー制度の導入が必要と考えるがどうか。



答（教育長） スクールロイヤー制度は顕在化している問題への対応にとどまらず、その背景となるさまざまな問題の発見や対応にも資することができると考えている。また、教職員の負担軽減や健康管理の側面からも極めて重要である。県のいじめ問題対策推進事業の中にスクールロイヤー活用事業があるので、十分検証した上で、導入していきたい。